

乗船レビュー

フェリーさんふらわあ 南九州航路新造船 さんふらわあ さつま・きりしま



2018年5月・9月に就航したばかりのフェリーさんふらわあ南九州航路「さんふらわあさつま」「さんふらわあきりしま」今回はこの最新鋭の船について詳しく紹介したい。

乗船日

さんふらわあさつま 志布志→大阪
2018年5月19日(土曜日)

さんふらわあきりしま 大阪→志布志
2018年10月21日(日曜日)

志布志へ(さつま乗船時)

まず自宅大分から志布志へ、であるが、大分を8時に出て高速バスと日南線を乗り継ぎ、志布志に15時に到着した。新幹線であれば余裕で新大阪にたどり着けるうえ下手すれば往復出来る時間である。志布志のジョイフルで休憩した後バスに乗って港へ行こうとしたら目の前を早過してしまった。ぼくは温厚なので2km歩きました。

ちょっとフェリー全体が綺麗に見えるような場所に寄り道をして、志布志港フェリー乗り場へ。30分の散歩楽しかった!!

正直なところ外見はよくあるフェリーの標準形という感じで、そんなに変わった形をしているわけでもない。近くで見ると製造したてで綺麗な一、というくらいの感想であった。



乗船

QR自動チェックインを試して乗船へ。新さつまではカードキーは個室だけでなくツーリスト(大部屋)も含めた全員に渡されるようになっている。船内のデジタルサイネージにかさずと部屋の場所が表示される仕組み。

ちなみにツーリストはカードキーの内鍵対策か、常に開放状態になっているようだった。まあツーリストだと普通に携帯し忘れると思うし、事故が多発したのかもしれない。



中九州航路と違って乗船口がかなり低い位置にあり、船を見上げるように船内へ。高低差を二段分のエスカレーターで稼いでエントランスへと到る。エントランスはアトリウムと名付けられ三階分を使った吹き抜けとなっており、天井ではプロジェクションマッピングも出来るようになっている。この辺はどうしても阪九



フェリーと比べてしまうと規模の差が気になってしまうが、今までのさんふらわあでは一番インパクトがあると感じる。

ツーリスト



ツーリストはいわゆる大部屋。さつま乗船時にはこの部屋を選んでみた。マットがフランスベッドになっており分厚い、中九州航路にはないシーツも付いている。そしてカーテンも付いた。カーテンで仕切ったことにより読書灯も付いている。



しかしその幅は思ったよりは狭い感じで、阪九や名門大洋のほうが全然広いように感じた。船も大きくなったしもう少し余裕があるものだったと思ったが…

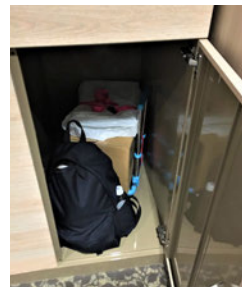
結局、この辺はおそらくフェリーさんふらわあの設計思想なのだろう。快適に過ごしたければツーリストベッドかそれ以上の船室にするべきだという。

しかし、それでも本日が満席なことを考えるとフェ

リーさんふらわあの中では天国のような居住性があった。カーテンで仕切れることもあり、満室でなければかなり過ごしやすと思われる。

ちなみに荷物は船内のあちこちに用意されている無料ロッカーに突っ込んだ。これを利用することで部屋に荷物をほとんど持ち込まない運用ができた。他のフェリーだと大抵ロッカーは有料なのでこれはとても有難い。自分は夜にごそごそ作業するマンなので、ロッカーに全部入れておけるととても楽しめ他の席に気を遣わなくていいので良い。

ツーリスト周辺にはアトリウムにしかロッカーがないので設置が少ないものだと勘違いしていたが、ツーリストベッドのほうに行くと各部屋の前にずらずらと並んでいたの、そうそう埋まることはなさそうである。



ツーリストベッド

ツーリストには前回懲…の状況はわかったので、2回目のきりしま乗船時にはもう一つ上のツーリストベッドを選んでみた。本当はさらに一つ上にあるプライベートシングルを選んでみたかったのだが、乗った日は満席であった。船全体で2室16名しかないので早めに取らないといけなさそうだ。



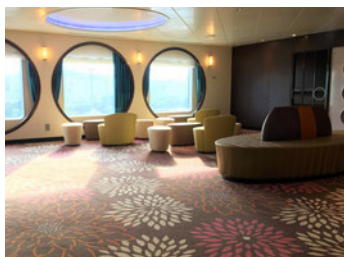
ツーリストベッドはフェリーさんふらわあでは中九州航路のごーとばーるに続くものになる。ごーとばーるのものはツーリストを改造して新設したもののなのでとても狭さが気になってしまったが、この船のベッドは当然新規設置なこともあり通常通りの広さであった。なおアメニティとして歯ブラシとタオルが付く。



部屋の中は更衣室(狭い)がある程度である。荷物置き場はなく、リュック位ならベッドの端に置けるが、大きなものは部屋の外のロッカーに入れておくことになる。その際カードキーがないと締め出されてしまうので注意が必要だ。

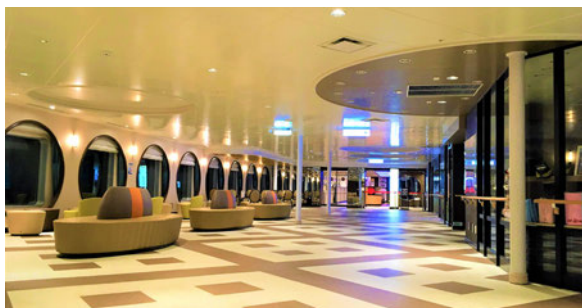
パブリックスペース

中央の吹き抜け（アトリウム）の各階部分はパブリック、いわゆるフリースペースになっており、かなり多くのイスが備え付けられている。中九州航路ではこの数が少なく哀しみが多かったの

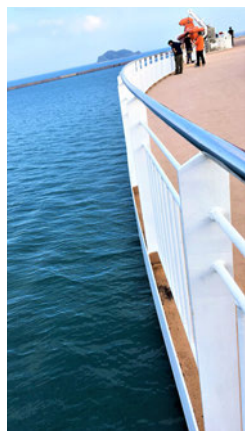


で、これらもとてもありがたい。満席の日でも座るのには不自由しなかった。

特にレストラン前のプロムナードは他のフェリーでは見たことがないくらいに広い。ここのインパクトは非常に大きかった。そんな一角に昔ながらのゲームスペースが生きているのはなかなかギャップが面白い。なんだかんだでそこそこ稼ぐのだろうか…



展望デッキ



展望デッキは8階部分に相当するのでかなり高い位置にある。展望デッキの一部が外側に膨らんでいる構造になっており、船体の外側にはみ出ている。それ以外はまあ普通かなあと思っていたが、デッキ中央あたりに置かれている椅子がなかなか真四角のデカイやつである。しばらくそれを眺めてみて、おもむろに椅子に寝っ転がってみた。やばい。これはヤバイ。海のと真ん中で寝っ転がるというものすごい体験が出来る、ぶっちゃけここで寝てもいいの

ではと感動してしまった。

なおこの椅子の真価は夜に発揮される。夜にこのイスで寝転び空を見ると、視野いっぱい星空が見えるのだ。なんやこれ反則だろ。なかなか他のフェリーでは出来ない



体験で感動的であった。

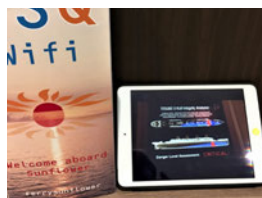
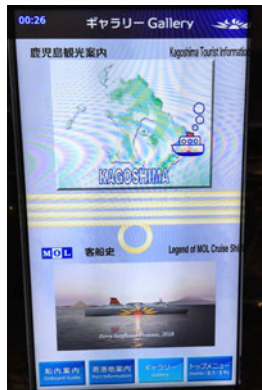
ただ、就航3日目のさつまのときは良かったが、就航1か月ほど経ったきりしまのほうでは椅子がかなり潮っぽくなってしまっていた。何か椅子に敷いておくなりしないと厳しいが、強風だと飛んでいく恐れもあるため悩ましい。雨の直後とかならまだマンだろうか…

デジタルコンテンツ関連

新さつま・きりしまのウリの一つであるデジタルサイネージはパブリックスペースの数カ所に設置してあり自由に使うことが出来る。就航地紹介や歴史コンテンツのようなものもあるので暇なときにしてみると良いかもしれない。

iPadなどのWifi接続でもサイネージ内のコンテンツは表示でき、さらにその端末で映画コンテンツも見れるようになっている。なんか海難系映画も入ってますが…とりあえずタイタニック2012を見てみると、救命胴衣の話が出ているちょうどそのときに船内アナウンスで救命胴衣の話があり、思わず大変神妙な面持ちになってしまった。映画コンテンツ自体は全然余裕で見ることができ、シークも自由に引っぱりもなくスムーズに視聴することが出来た。このサービス自体はなかなか面白いものだと思う。(子供向けの)アニメ系があれば言うことなしなのではないだろうか。周辺でもちょくちょく利用者がいたので暇つぶしにはとても良い。

なお、このWifiではインターネット接続も可能となっているが、やはり外洋航路であり繋がりは散々といった感じで、基本的には使い物にならないと思ったほうが良い。たまにTwitterの通知を拾ってくるのが精一杯で、TLを見るのすら困難である。



レストラン



レストランはバイキング形式。このバイキングは新さつま就航とともに中九州航路も含めてリニューアルされ、1500円から2000円へと値上げされた。正直良い値段である。がんばって利用してみ

ただ、揚げ物などのバイキングに定番の冷食系がほぼ一掃されており、どれも前より手が込んだ食べ物になったという印象がある。特に肉系のものがかなり増えたように感じ、前は揚げ物が薄い豚肉のものでの接待だったものが、豚の角煮などちや

んとした肉の塊が食えるようになった。

旅行の楽しみの一つとしてのレストランと考えれば、この方針は正解であると思う。

ただ、やはりこの値段になるとしょっちゅう乗る人にとっては正直キツイ…とは思われる。そのための対策なのか、新たに単品メニューが用意されており、カレーやオムライスのセットが単品注文出来るようになった。これは逆に持ち込みで済ませていた人にも良いサービス向上であるし、全体的に良い方向の改善だと思う。ただ、単品メニューはテイクアウト専用となりレストラン内では食べられない。パブリックスペースで食べねばならぬのだが、イスには不自由しないもののテーブルが付いた席はかなり少ないため、カレーを持って右往左往している人が見られた。まあ平日ならこんなに利用客は多くはないので大丈夫だとは思うが。

朝食は未使用だが、たぶん値段的にも他のさんふらわあと同等のものだと思う。620円でバイキングなのでリーズナブルであり、朝食だけでも利用する価値はあるだろう。



プロジェクションマッピング

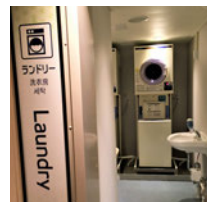


本船のウリの一つであるアトリウムを利用したプロジェクションマッピング。アトリウム全体を使うものと勘違いしていたが、そうではなくアトリウムの天井に映像を映すものであった。

なんとも評価は難しいのだが、船内でこうしたイベントを行なうことが出来るということ自体は大変良いと思う。20時から行われるが、できれば2回やって欲しい。(さつまのときはレストランで飯食ってるときに放送があって慌てて出てきた)

大浴場

風呂はまあこんなものかな、という感じてであった。現行船の1.7倍とのことなのでさぞ広いだろうと思ったのだが、入ってみると中九州航路より若干広くらいで拍子抜け。旧船が狭かったんやな… 脱衣場は中九州航路よりも広くてうらやましかった。出航が早い分21時台に閉めてしまうので要注意である(さつまのときは行ったら閉まっていて翌朝になった) また、シャワールームも併設しておりこちらはいつでも利用できる。シャワー室自体はぱーる・ごーると大差ない感じてであった。なお、ツーリストの奥にはコインランドリーが設置されている。



志布志からの脱出(きりしま乗船時)

志布志から大分へ帰るにはいくつか方法があるが、とりあえず旅名人の九州満喫きっぷなるフリー切符を入手しておき、日南線→日豊本線を乗り継いで帰った。大阪日曜発のフェリーで志布志855着、港914発のバスで脱出しで…と考えていたのだが、なんとそのバスが廃止されて10時のバスしかなかった。ほくは温厚なので2km歩きました。おのれいわ〇き。

なお予約時にさんふらわあライナーなる鹿児島行きバスが予約でき、今のところ無料サービスを行っているのそれに乗るのが一番よさげである。宮崎方面に出たい場合は志布志925発の列車があるので大阪日曜発ならタクシーで駅へ行くと良い。その他の日だと13時過ぎまで列車はなく、宮崎着は16時となる。バスで都城経由が最速である。

ウォータークーラーが無い?

さつま船内をあちこちうろついてみたのだが、ウォータークーラーが見当たらなかった。給水設備自体は給湯室があり、そこには給水機は置いてあったので、組み合わせで何とかしてくれということであろうか…

ちなみに紙コップは売店で販売していたが、給湯室の製氷機の横にも備え付けてある。



さんふらわあ新さつま・きりしまの乗船レビューは以上である。フェリーさんふらわあとしてはようやく良い船が出来てきたなという感じてあり、居住性の面でも北九州航路にようやく肩を並べるようになった。

次は数年後に別府航路の新造船が控えているはずであり、どのような船になるのかとても楽しみである。早くください。